

(問) ハコモノ建設が多かったのが財政悪化の原因ではありませんか？

(答) バブル崩壊後、本県も他県と同様、国の景気対策に積極的に対応して公共投資額を増額してきました。

財政状況が悪化したのは、公共投資の拡大に伴い、その財源の多くを県債の増発や基金の取崩しに頼ったことが要因の一つとなっているのは事実ですが、ハコモノ建設については、公共投資額を増額する中にも、重点化を図りながら、年度間の負担額を平準化しながら推進してきました。

また、いわゆるハコモノは、県民の健康づくりや文化振興、産業振興につながるものであり、県民の皆様に十分利用していただくことが重要と考えています。

バブル崩壊後(平成4年以降)に整備した県の主な施設一覧 (億円)

施設名	取得価格	施設名	取得価格
・県庁新館(H9)	277	・パークドーム(H8)	84
・八代総合庁舎(H8)	25	・KKウイング(H9)	122
・県立大学(H11までの総合計)	102	・総合射撃場(H9)	8
・熊本県民交流館パレア(H13)	35		
・総合福祉センター(H5)	20	・県立技術短期大学校(H8)	50
・保健環境科学研究所(H6)	22	・天草工業高校(H9)	40
・こころの医療センター(H9)	58	・あしきた青少年の家(H9)	34
・こども総合療育センター(H16)	26	・ひのくに高等養護学校(H12)	16
・グランメッセ熊本(H9)	94	・八代警察署(H6)	9
・熊本テルサ(H8)	29	・運転免許センター(H13)	54

* ()内は完成年度。取得価格には、用地費は含まれません。